

# こども安全対策分科会

## Index こどもに安全で良好な環境の整備

目的	ステップ1	ステップ2	ステップ3
・地域住民による見守り活動 ・こども110番の家 ・校庭、園庭、公園の芝生化	安全な環境づくりについて理解する	活動に参加する	こどもに安全な環境ができている
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>啓発活動実施回数</b> ・各小学校への学援隊参加呼びかけ 14校 ・こども110番の家登録呼びかけ 42回	<b>①見守り活動参加者数</b> 未把握（学援隊） <b>②「こども110番の家」登録者数</b> 2,210軒 <b>③芝生化された箇所数</b> 小学校2校 保育園1園	<b>①見守り活動参加者数</b> 未把握（学援隊） <b>②「こども110番の家」登録者数</b> 2,210軒 <b>③芝生化された箇所数</b> 小学校2校 保育園1園
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	実施者の記録
	<b>【自己評価】</b> ・啓発活動（学援隊参加呼びかけ、「こども110番の家」登録呼びかけ）は毎年順調に実施され、多くの区民に周知することができている。 ・見守り活動参加者数（学援隊等）、「こども110番の家」登録者数どちらも地域全体で子どもたちを見守る意識の醸成により徐々に増えている。 ・芝生化された箇所数は徐々に増えている。		

## Index 危険予知についての指導

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
危険予知トレーニング	日常生活に潜む危険について理解する	危険を回避する行動をとっている	こどものけがの減少
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>育成者向けKYT研修会実施回数</b> （H27年度指標変更） 2回	<b>危険回避行動をとれるこどもの数</b> 95人	<b>こどものけがの件数（子ども会）</b> 0件 ※子ども会 KYT 実施後の催事でケガをした子どもの数
	測定方法	測定方法	測定方法

	実施者の記録	トレーニングの際の聞き取り等	救急搬送記録
	<p><b>【自己評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育成者向け研修会は毎年定期的を開催しており、回数は横ばいである。</li> <li>・ 危険回避行動をとれるこどもの数（KYT 実践活動参加者数）の増加を目指す。</li> <li>・ 子ども会でのこどものけがの件数は0件を維持している。</li> </ul>		

**Index** 養育者への啓発（重点取組）

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
養育者への啓発	養育者への啓発	事故対策を実施している	乳幼児の事故減少
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①啓発リーフレット等の配布数</b> ・クリアファイル1,480部 ・リーフレット400部 <b>②地域育児教室(赤ちゃん会)の参加者数</b> 375人	<b>乳幼児健診でのアンケートで「備えができている」人の割合</b> ・64.1%（4か月） ・74.0%（1歳6か月）	<b>乳幼児の救急搬送件数</b> 48件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	乳幼児健診でのアンケート	救急搬送記録
	<b>【自己評価】</b> ・啓発物については、関係団体や分科会委員を通じて各イベント等で配布し、事故予防への意識向上につながっている。 ・地域育児教室における保健師による事故予防講座の実施により、事故予防への意識向上につながっている。 ・乳幼児健診においてアンケートを実施したことにより、養育者の行動、意識を把握することができた。		

# スポーツ・余暇安全対策分科会

## Index 運動不足の解消

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
区民の運動機会の提供	スポーツの大切さを理解している	自主的にスポーツを実践している	スポーツ実践者の増加
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①スポーツイベント実施回数</b> 107回	<b>週1回以上のスポーツ実践者</b> 14.8%	<b>週1回以上のスポーツ実践者</b> 14.8%
	<b>②参加者数</b> 合計約 22,000名		
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	アンケート調査	アンケート調査
	<b>【自己評価】</b> ・区民が気軽に参加できるスポーツイベントは毎年着実に実施されており、参加者も一定の人数を確保することができている。 ・週1回以上のスポーツ実践者を増やしていくことを目標とする。		

## Index 準備運動についての啓発・指導

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
予防講習会の開催	スポーツ外傷予防の大切さを理解する	自主的に啓発活動を行っている	運動競技中の事故・けがの減少
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①予防講習会開催回数</b> 5回	<b>①スポーツイベント時の注意喚起回数</b> 5回	<b>運動競技事故</b> 14件
	<b>②研修参加者数</b> 241人	<b>②参加者数</b> 約 7,500人	
	<b>③さかえっ子体操普及啓発</b> 29回		
	測定方法	測定方法	測定方法
各団体からの報告	各団体からの報告	救急搬送記録	

	<p><b>【自己評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けが予防に関する研修は毎年確実に行うことで、参加者数も一定数を維持することができている。</li> <li>・スポーツイベント時には、主催者による準備運動の実施、危険への注意喚起をしており、けが予防のための活動が行われている。</li> <li>・運動競技事故の救急搬送件数は、徐々に減少傾向にある。</li> </ul>
--	--

**Index** 安全なウォーキングの推進（重点取組）

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
ウォーキングの推進	ウォーキングに対する啓発	ウォーキングを実践している	ウォーキング時のけが発生件数の減少
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<p><b>チラシ配布数</b></p> <p>5,500枚</p>	<p><b>①アンケートで「ウォーキングを実践している」人の割合</b></p> <p>36.6%</p> <p><b>②歩数計の配布数</b></p> <p>7,822個</p>	<p><b>①ウォーキング時と思われる状況での救急搬送件数</b></p> <p>12件</p> <p><b>②ウォーキングを実践している人へのアンケート</b></p> <p>75%</p>
	測定方法	測定方法	測定方法
	各団体からの報告	各団体からの報告 アンケート	救急搬送記録 アンケート
	<p><b>【自己評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングの効果や、正しい歩き方に関するチラシを毎年一定数配布することで、周知ができている。</li> <li>・アンケートで「ウォーキングを実践している」人の割合は、徐々に上がっていく見込みである。</li> <li>・歩数計の配布数は着実に増えている。</li> <li>・ウォーキング時と思われるけがによる救急搬送件数は、今後減少していく見込みである。</li> <li>・ウォーキングを実践している人にアンケートを実施することで、ウォーキングの効果を測定。</li> </ul>		

# 交通安全対策分科会

## Index 交通安全に関する啓発

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
交通安全マップの作成・活用	危険箇所を把握している	危険を回避する行動をとっている	交通事故件数、交通事故による死傷者数の減少
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①マップアクセス数</b> 5,692件	<b>学援隊及びスクールゾーン活動参加者数</b> 617人	<b>①交通事故件数</b> 224件
	<b>②キャンペーン参加者数</b> 約7,000人		<b>②交通事故による死傷者数</b> 2人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	警察統計 救急搬送記録、人口動態統計
<b>【自己評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年から交通安全マップをWeb上にて公開。より区民の目に触れやすくなり、これまで紙の交通安全マップに触れてこなかった世代へのPR効果も期待できる。</li> <li>・キャンペーン参加者数は順調に増加しており、啓発活動が進んでいる。</li> <li>・引き続き、学援隊及びスクールゾーン活動参加者を通じて、地域において見守り・啓発を実施していく。</li> <li>・交通事故による死者数はほぼ横ばいだが、交通事故件数は徐々に減少傾向にある</li> </ul>			

## Index こどもの交通事故に対する啓発

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
はまっ子交通あんぜん教室	自転車の正しい乗り方等、交通ルールやマナーを知る	こどもが交通ルールやマナーを守っている	こどもの交通事故件数、交通事故による死傷者数の減少
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>

	<b>正しい知識を持ったこどもの割合</b> 55.2%	<b>こどもの交通事故の原因</b> 18件(事故件数のうちこどもの事故件数) 5人(こどもの事故のうち自転車による負傷者数)	<b>①こどもの交通事故件数</b> 18件 <b>②交通事故による死傷者数</b> 258人
	測定方法	測定方法	測定方法
	教室開催時の聞き取り等	警察統計	警察統計、救急搬送記録、人口動態統計
	<b>【自己評価】</b> ・正しい知識を持ったこどもの割合は、ほぼ横ばいで推移している。引き続き、教室を開催することで全校児童への啓発を実施していく。 ・こどもの交通事故件数のうち、自転車による負傷者は徐々に減少傾向にある。 ・交通事故全体の死傷者数・こどもの交通事故の件数は減少傾向にある。		
取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
自転車ヘルメット着用啓発	こどもや親が自転車ヘルメットの重要性を理解する	ヘルメットを着用するこどもが増えている	自転車事故によるこどもの死傷者数の減少
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>自転車ヘルメット着用啓発チラシ配布数</b> 8,500部	<b>自転車ヘルメットを着用するこどもの割合</b> 小学生－％ 中学生－％	<b>自転車事故によるこどもの死傷者数</b> 0人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	アンケート	救急搬送記録、人口動態統計
	<b>【自己評価】</b> ・自転車ヘルメット着用啓発チラシについては、小学校、保育園、3歳児検診受診者の保護者を対象に配布しているため、毎年順調に配布数を伸ばしている。 ・自転車ヘルメットを着用するこどもの割合は、2014年度から統計を取っている。特に中学生について、今後増やしていく必要がある。 ・自転車事故によるこどもの死者数は0人を維持している。		

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
スクールゾーン対策協議会	親や地域住民がスクールゾーンの危険箇所を把握する	A 親や地域住民が自主的に見守り活動を行っている B 危険箇所の改善が行われている	登下校中のこどもの交通事故の減少
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①スクールゾーン対策協議会の開催数</b> 15校 <b>②危険箇所を把握している親や地域住民の数</b> 617名	<b>①見守り活動参加者数</b> 一名 <b>②改善箇所数</b> 62箇所	<b>①こどもの交通事故件数</b> 18件 <b>②交通事故による死傷者数</b> 0人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	AB 実施者の記録	警察統計、救急搬送記録、人口動態統計
	<b>【自己評価】</b> ・危険箇所を把握している親や地域住民の数は、学援隊及びスクールゾーン活動参加者を計上している。引き続き、活動参加者を通じて啓発を実施していく。 ・引き続き、見守り活動参加者数を確保するとともに、設備改善も進めていく。		

# 児童虐待予防対策分科会

## Index 親への支援

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
こんにちは赤ちゃん訪問	出産後の早い段階から育児支援の情報を入手している	気軽に相談、サービス利用をしている	子育てへの負担感やストレスの軽減
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>① こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問率</b> 88.0%	<b>一時預かりなど、サービス利用件数</b> 3,271件	<b>児童虐待新規把握件数</b> 23件
	<b>② 父子手帳の配布数</b> 1,233冊		
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	産前産後ケアヘルパー・一時預かり利用者数	横浜市の記録
<b>【自己評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こんにちは赤ちゃん訪問の訪問率はほぼ横ばいであるが、母子健康手帳交付時の説明等により認知度を増やし、高い水準で推移している。</li> <li>・ 父子手帳の配布により、父親に対する情報提供も実施。順調に配布数を増やしている。</li> <li>・ サービスの利用件数は事業の周知により順調に増加している。</li> <li>・ 児童虐待の新規把握件数は減少傾向にある。</li> </ul>			

## Index 地域における虐待防止啓発

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
さかえっ子笑顔ひろげ隊	子育て世帯への見守りの大切さを理解する	地域の方々が自主的に見守り等の活動を行っている	子育てへの負担感やストレスの軽減
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>① 身近な地域に出向いての見守りの啓発人数</b> 1,346人	<b>① 見守り活動実施地区数</b> 7地区	<b>児童虐待新規把握件数</b> 23件
	<b>② リーフレット、オレンジリボンの配布数</b> 1,346枚	<b>② 身近な地域に出向いての見守り啓発活動</b> 11回	

	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	横浜市の記録
	<b>【自己評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な取組により、年々確実に啓発活動の輪が広がっている。</li> <li>・見守り活動を自主的に行っている地域の数は、啓発活動の実施によって今後増加していくことが見込まれる。</li> <li>・児童虐待の新規把握件数は減少傾向にある。</li> </ul>		

**Index** 多角的なアプローチ（重点取組）

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
より強固なネットワークの構築	支援が必要な家庭の把握ができています	関係機関が連携しての体制ができています	支援が必要な家庭に対し、実践的な連携が取れている
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①母子訪問実施率</b> 69.3% <b>②EPDS 実施結果</b> 533件 うちハイリスク者61人 (11%) <b>③乳幼児健診受診率</b> 96.1%（4か月） 94.2%（1歳半） 94.0%（3歳） <b>④未受診者の状況把握率</b> 100%	<b>①児童虐待防止連絡会開催回数</b> 全体会：1回 地区別：2回 <b>②EPDS 高得点者への支援</b> 実施 <b>③授乳相談、メンタルヘルス相談等、養育支援関係事業利用数</b> 583人	<b>①個別ケース検討会議実施数</b> 36件 <b>②児童虐待新規把握件数</b> 23件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	横浜市の記録
	<b>【自己評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子訪問や乳幼児健診の中で支援が必要な家庭の把握をしている。</li> <li>・2015年度から地区別の児童虐待防止連絡会を開催している。</li> <li>・児童虐待の新規把握件数は減少傾向にある。</li> </ul>		

# 高齢者安全対策分科会

## Index 高齢者の体力づくり

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
元気づくりステーション	介護予防活動の大切さを理解している	介護予防活動に参加している ①ステーションが増加している ②ステーション参加者が増えている	要介護認定率の抑制
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>活動の理解度</b> 89%	<b>①ステーション箇所数</b> 13 か所 <b>②参加者数（男性・75歳以上の割合）</b> 518人（うち75歳以上の男性89人）	<b>要介護認定率</b> 前期高齢者（3.5%） 後期高齢者（27.8%） 市平均：前期 4.3% 後期 31.5%
	測定方法	測定方法	測定方法
	参加者アンケート	実施者の記録	介護保険認定データ
	<b>【自己評価】</b> ・元気づくりステーション参加者アンケートによる介護予防の知識獲得度は、年々上昇している。 ・元気づくりステーションの箇所数は順調に増加しており、それとともに各ステーションの参加者も増えている。 ・要介護認定率（介護保険認定データ）は、多少の上下はあるものの、ほぼ横ばいで推移している。 ・栄区は横浜市に比べ、前期高齢者・後期高齢者ともに要介護認定率が低い。		

## Index 高齢者虐待の防止

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
高齢者の見守り	見守り活動について知る	見守り活動に参加する ①見守り活動の担い手が増えている ②見守り活動の実施地域が拡大している	虐待など困難なケースの早期発見
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>

	<b>見守り活動団体が実施するイベントなどに参加する区民の数</b> 約 200 人	<b>①見守り参加者数</b> 410 人 <b>②見守り実施地域</b> 区内全域、公田町団地・豊田地区・桂台地区	<b>虐待など困難なケースの把握件数</b> 4 件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	実施者の記録
	<b>【自己評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り活動をテーマとした講座、研修に参加する区民の数は、高齢化進展に伴う意識の高まりにより、増加することが見込まれる。</li> <li>・見守り活動参加者数、見守り活動実施地域ともに増加することが見込まれる。</li> <li>・虐待など困難なケースの把握件数は、ほぼ横ばいの状況である。</li> </ul>		
取組	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3
認知症サポーター	認知症を理解している	キャラバンメイト（サポーター）が自主的に講座を開催している	虐待など困難なケースの早期発見
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①サポーター登録者数</b> 7,587 人 <b>②講座実施回数・参加者数</b> 155 回 6,482 人	<b>キャラバンメイト登録者数</b> 83 人	<b>虐待など困難なケースの把握件数</b> 4 件
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	実施者の記録
	<b>【自己評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター登録者数、講座実施回数・参加者数のどちらも順調に増加している。</li> <li>・キャラバンメイトの登録者数は、今後増加していくことが見込まれる。</li> <li>・虐待など困難なケースの把握件数は、ほぼ横ばいの状況である。</li> </ul>		

**Index** ヒートショック対策（重点取組）

取組	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3
ヒートショック対策	ヒートショックの認知度向上	ヒートショック対策を実施している	溺死・溺水件数の抑制
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>

	<b>①啓発リーフレット配布数</b> 10,000 枚 <b>②講演会・出前講座の参加者数</b> 1,579 人	<b>ヒートショックの「対策をしている」人の割合</b> 77%	<b>救急搬送データ（浴槽内での溺死及び死に至らない溺水）</b> 12 件
測定方法		測定方法	測定方法
実施者の記録		アンケート	救急搬送データ
<b>【自己評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発リーフレットの配布・出前講座・講演会を通して、ヒートショック予防に関する認知度の向上が見込まれる。</li> <li>・ヒートショックの対策を行っている高齢者の割合は、継続的な啓発を行うことで増加することが見込まれる。</li> <li>・溺死・溺水で救急搬送された高齢者の数は、継続的な啓発を行うことで減少することが見込まれる。</li> </ul>			

# 災害安全対策分科会

## Index 訓練内容の見直し

取組	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3
地域防災拠点訓練の見直し	防災意識・知識が向上する	地域防災拠点訓練への参加者数が増加している	地震災害による死傷者数の抑止
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①地域防災拠点の場所を知っている区民の割合</b> 83.7%	<b>地域防災拠点訓練の参加者数</b> 約 43,700 人	<b>地震災害による死傷者数</b> 0 人
	<b>②防災マップ配布数、自 助啓発マグネットシ ート配布数</b> 54,000 枚、6,000 枚		
	測定方法	測定方法	測定方法
	区民アンケート 実施者の記録	実施者の記録	人口動態統計
	<b>【自己評価】</b> ・地域防災拠点の場所を知っている区民の割合は、防災マップやマグネットシート配布などの啓発の結果、年々上昇している。 ・地域防災拠点訓練の参加者数についても年々増加している。 ・地震災害による死傷者数は、0 人を維持している。		

## Index 災害時要援護者支援の取組推進

取組	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3
災害時要援護者支援の取組推進	自治会町内会が避難支援の取組について知る	自治会町内会が避難支援の取組に着手している	地震災害による死傷者数の抑止
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①説明会開催数</b> 8 回 <b>②参加者数</b> 370 人	<b>避難支援の取組に着手している自治会町内会の割合</b> 78%	<b>地震災害による死傷者数</b> 0 人
	測定方法	測定方法	測定方法

	実施者の記録	自治会町内会アンケート	人口動態統計
	<p><b>【自己評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会・町内会への避難支援についての説明会は、過去に1度は受講している自治会・町内会が増えたため、徐々に開催数が減る傾向にある。</li> <li>避難支援の取組に着手している自治会町内会の割合は本年度減少した。一部の自治会町内会では、取組に着手したものの、役員の交代等により取組を継続できなかった可能性がある。</li> <li>地震災害による死傷者数は、0人を維持している。</li> </ul>		

**Index** 栄区独自の「地域避難所」設置（重点取組）

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
地域避難所	自治会町内会単位の避難所（地域避難所）を運用している	自治会町内会単体で防災訓練を実施している	地震災害による死傷者数の抑止
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>地域避難所選定数</b> 65箇所	<b>防災訓練実施数</b> 53回	<b>地震災害による死傷者数</b> 0人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	人口動態統計
	<p><b>【自己評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域避難所を運用している自治会町内会は徐々に増加している。</li> <li>地域防災拠点訓練以外に自治会町内会単位で行われる防災訓練の割合は、共助の意識の向上から、年々増加している。</li> <li>地震による死傷者数は、0人を維持している。</li> </ul>		

**Index** 水害・土砂災害への対策強化（重点取組）

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
水害・土砂災害への対策強化	風水害の危険性を知っている	迅速・円滑な避難所運営ができる	風水害による死傷者数の抑止
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>

	<b>チラシ・ハザードマップの配布数</b> ・約 54,000 部	<b>①避難勧告等発令回数</b> 1 回 <b>②避難所開設数</b> 7 か所 <b>③開設に課題があった数</b> 0 か所	<b>風水害による死傷者数</b> 0 人
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	人口動態統計
<b>【自己評価】</b> ・チラシ・ハザードマップの配布については、昨今、全国的な水害被害の多発により関心が高まり、年々増加している。 ・水害対策訓練等を重ねることにより、迅速・円滑な避難所開設ができています。 ・風水害による死傷者数は、ほぼ横ばいで推移している。			

# 自殺予防対策分科会

## Index 自殺問題や自殺予防に関する啓発活動

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
自殺問題や自殺予防に関する啓発活動	自殺問題・自殺のハイリスク者について知る	自殺問題・自殺のハイリスク者について理解が深まる	自殺者数、自殺死亡率の抑制
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①リーフレット配布数</b> 1,461枚	<b>自殺問題への区民の理解度</b> －%	<b>①自殺者数</b> 15人
	<b>②パネル展実施回数</b> 1回		<b>②自殺死亡率※（栄区）</b> 12.3
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	区民アンケート	人口動態統計
	<b>【自己評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットは機会を捉え、場、対象に合わせて配布できている。また、パネル展についても毎年行うことができている。</li> <li>・自殺問題への区民の理解度について、引き続き測定を行っていく。</li> <li>・自殺者数、自殺死亡率については、若干の増減を繰り返している。</li> </ul>		

※人口10万人あたりの年間自殺者数

## Index ゲートキーパーの育成

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
ハートフルサポーター養成基礎研修	ゲートキーパーを育成する	ゲートキーパーが自殺予防の啓発キャンペーンに参加する	自殺者数、自殺死亡率の抑制
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>ハートフルサポーター養成基礎研修参加者の自殺に対する知識の向上（自殺に対する204の質問の正答率）</b> 94.0%	<b>啓発キャンペーンへのさかえ・ハートフルサポーター参加者数</b> 22人	<b>①自殺者数</b> 15人
			<b>②自殺死亡率（栄区）</b> 12.3
	測定方法	測定方法	測定方法
実施者の記録	実施者の記録	人口動態統計	

	<p><b>【自己評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハートフルサポーター養成基礎研修参加者の自殺に対する知識の向上については、高い水準で推移している。</li> <li>・さかえ・ハートフルサポーターが啓発活動等で活躍している。</li> <li>・自殺者数、自殺死亡率については、若干の増減を繰り返している。</li> </ul>
--	---

**Index** ハイリスク者対応のスキルアップ研修

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
スキルアップ研修	ハイリスク者対応について知る	ハイリスク者対応を実践する	自殺者数、自殺死亡率の抑制
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>専門従事者研修参加者数</b> 13人	<b>専門従事者研修参加者数</b> 13人	<b>①自殺者数</b> 15人 <b>②自殺死亡率（栄区）</b> 12.3
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	実施者の記録	人口動態統計
	<b>【自己評価】</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルアップ研修の参加者数については以下のように増加している。</li> <li>・自殺者数、自殺死亡率については、若干の増減を繰り返している。</li> </ul>		

**Index** メンタルヘルスの観点を取り入れた啓発及び専門職対応力向上（重点取組）

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
メンタルヘルスに関する講演会	メンタルヘルスを通じて自殺問題について身近に考える機会がある	メンタルヘルスの観点から自殺問題への理解が深まっている	自殺者数、自殺死亡率の抑制
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>メンタルヘルスに関する講座、講演会開催数・参加者数</b> 1回、30人	<b>メンタルヘルスの観点から自殺問題への興味、関心が深まっている人の割合</b> 96%	<b>①自殺者数</b> 15人 <b>②自殺死亡率（栄区）</b> 12.3
	測定方法	測定方法	測定方法
	実施者の記録	メンタルヘルスに関する講座、講演会でのアンケート	人口動態統計

	<p><b>【自己評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルスに関する講座や区民講演会開催数、参加者数は今後増加することが見込まれる。</li> <li>・メンタルヘルスに関する講座でのアンケートで、興味・関心が深まっている人の割合を集計。</li> <li>・自殺者数、自殺死亡率については、若干の増減を繰り返している。</li> </ul>
--	---

**Index** メンタルヘルス支援ネットワーク（重点取組）

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
メンタルヘルス支援ネットワーク	メンタルヘルスの知識の向上	メンタルヘルス不調者に対応する	自殺者数、自殺死亡率の抑制
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>メンタルヘルスの知識の向上</b> 100%	<b>メンタルヘルス不調者への対応</b> 100%	① <b>自殺者数</b> 15人 ② <b>自殺死亡率（栄区）</b> 12.3
	測定方法	測定方法	測定方法
	アンケート	アンケート	人口動態統計
	<b>【自己評価】</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルス支援ネットワークへの参加者が、研修会に参加して自殺念慮・自傷行為・自殺未遂者・自殺企図行動にする知識が向上したと答えた人の割合は高く推移している。</li> <li>・メンタルヘルス支援ネットワークに参加することで、メンタル不調者への対応ストレスの軽減につながった人の割合。</li> <li>・自殺者数、自殺死亡率については、若干の増減を繰り返している。</li> </ul>		

# 防犯対策分科会

**Index** 振り込め詐欺防止の取組を強化（重点取組）

取組	ステップ1	ステップ2	ステップ3
街頭キャンペーン、講座 ・講演等による啓発	地域住民が振り込め詐欺防止に対して意識を持つ	被害者層を中心に振り込め詐欺防止に関して理解が深まる	認知件数及び被害金額の減少
	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>	<b>指標・実績</b>
	<b>①街頭キャンペーン等における啓発回数</b> 5回	<b>振り込め詐欺防止対策を理解している人の割合</b> －%	<b>①認知件数</b> 27件
	<b>②金融機関での声掛け回数</b> 6回		<b>②被害金額</b> 6,815万円
	<b>③情報配信サービスの登録者数及び犯罪情報の配信件数</b> 887人、210回		
	<b>④講座・講演の開催数及び受講者数</b> 30回		
	測定方法	測定方法	測定方法
実施者の記録	アンケート	警察統計	
<b>【自己評価】</b> ・街頭キャンペーンや金融機関での声掛けによる啓発回数は、定期的を実施しており、機会を捉えて引き続き実施していく。 ・新規の取引も含め、徐々に地域において啓発活動が実施できている。 ・被害者層を対象に、振り込め詐欺防止対策の理解・実施状況について把握。 ・振り込め詐欺の認知件数及び被害金額は増加傾向にあったが、2015年は認知件数・被害金額ともに減少に転じた。			